

がん検診の実施状況及び 精度管理について



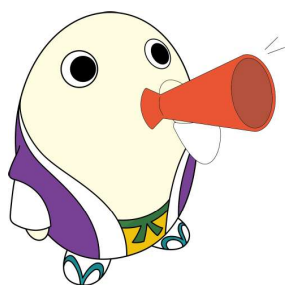
京都府健康対策課がん対策係

(令和5年3月13日 令和4年度生活習慣病検診等管理指導協議会)

1

本日の内容

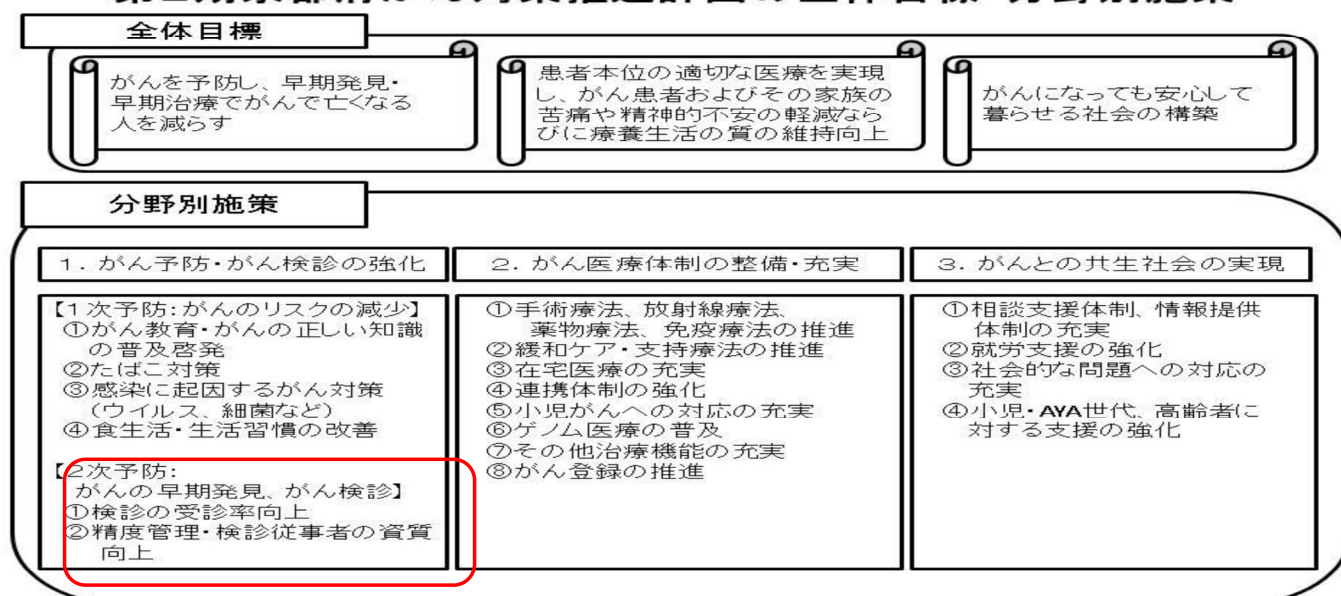
- 第2期京都府がん対策推進計画について
- 京都府のがんの状況について
- 令和3年度がん検診受診状況について（京都府調べ）
- がん検診の精度管理について
 - ・がん検診全般（検診実施状況・検診受診率・プロセス指標・チェックリスト等）
 - ・胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）
 - ・大腸がん検診
 - ・肺がん検診
 - ・乳がん検診
 - ・子宮頸がん検診
- 指針外のがん検診実施状況について



2

第2期京都府がん対策推進計画（H30～R5）

第2期京都府がん対策推進計画の全体目標・分野別施策



3

第2期京都府がん対策推進計画数値目標（がん検診）

数値目標	現状値	目標値 (2023年度)
がん検診受診率 (参考：国民生活基礎調査、40歳以上69歳未満 ただし子宮頸がん検診は20歳以上69歳未満)	38.7～44.3% (2019年度)	50%
がん検診精検受診率 (参考：地域保健健康増進事業報告)	66.7～93.9% (2018年度)	100%
がん検診・特定健診のセット検診実施状況 (京都府健康対策課調べ)	—	全市町村
総合がん検診の実施状況 (京都府健康対策課調べ)	—	全市町村
がん検診評価のためのチェックリスト項目を80%充足している市町村数 (参考：市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査)	—	全市町村
がん検診受診率向上・精度管理向上に関する人材の育成	—	150人

4

第2期京都府がん対策推進計画施策の方向性（がん検診抜粋）

（ア）受診率向上のための啓発

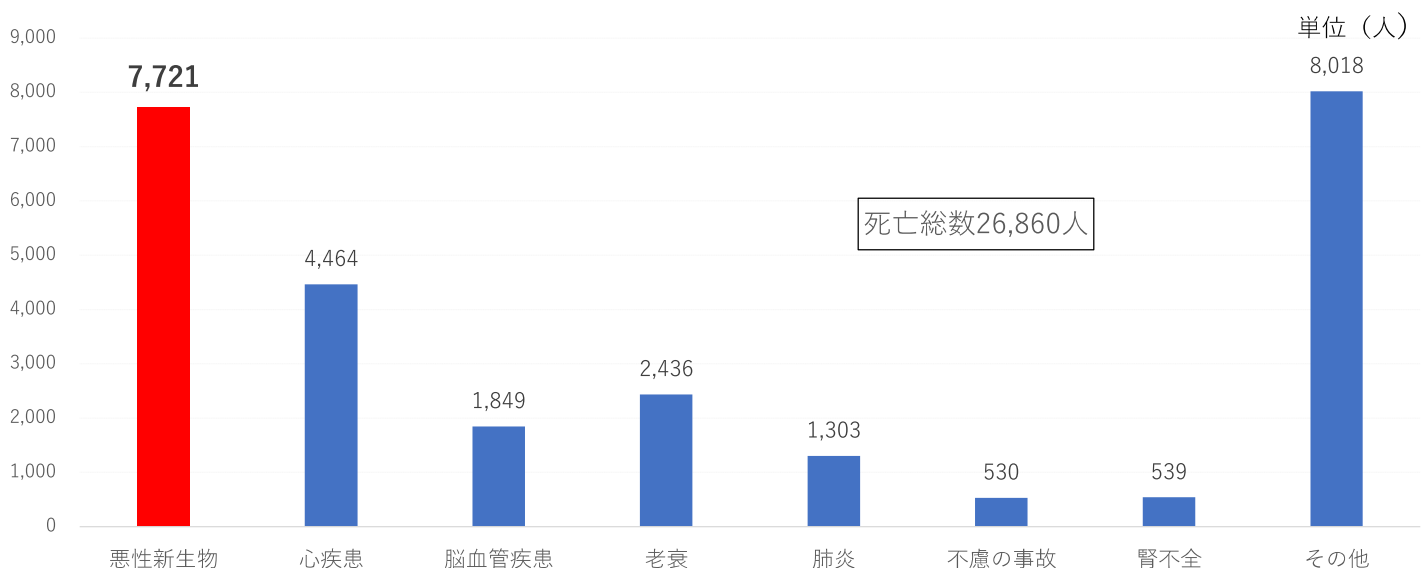
- A) 府、市町村は医療従事者や企業、職域保健関係者等と連携したがん検診の必要性についての啓発を実施します。その際、未受診者や優先順位の高い層（受診率が低い年齢・社会属性等）に対する**効果的な啓発・受診勧奨を実施すること**とし、府はマスメディアを意識した啓発を行います。
- B) 府は、市町村が実施するがん検診や、企業・医療保険者等が実施するがん検診の受診実態を把握・分析し、受診率向上のための方策を検討します。
- C) 病院、かかりつけ医、歯科医等の医療機関や薬局は、患者への受診啓発を呼びかけます。
- D) 企業、医療保険者や職域保健関係者は、被扶養者も含めた受診啓発を進めます。
- E) 府は、京都府がん対策推進府民会議受診率向上対策部会を活用し、**市町村**や企業・医療保険者等に対し、**受診率の向上に係る先進事例等最新情報の提供**を図ります。

（イ）受診しやすい環境づくり等

- A) 府は、総合がん検診や特定健診とのセット検診、土日・休日検診、夜間検診の充実について関係機関の調整を図るなど、導入を支援・推進します。
- B) 市町村は、医師会・検診事業者と調整を図り、土日、夜間検診、特定健診とのセット検診、コンビニ検診のほか受診手続きの簡素化など、**住民の受けやすい検診体制を充実**します。
- C) 企業、医療保険者や職域保健関係者は、被扶養者も含めた受診しやすい職場環境づくりを進めます。
- D) 府は、より精度が高く効果的な検診について情報収集に努め、市町村との情報共有を図るとともに、検診方法の見直しに係る国の議論を踏まえ、見直しがなされた場合は、市町村が迅速に導入できるよう支援します。
- E) 検診事業者や検診実施医療機関は、検診の需要に対応できる体制を確保します。また、府は検診事業検実施医療機関の実施体制を把握し、必要に応じて整備を働きかけます。

5

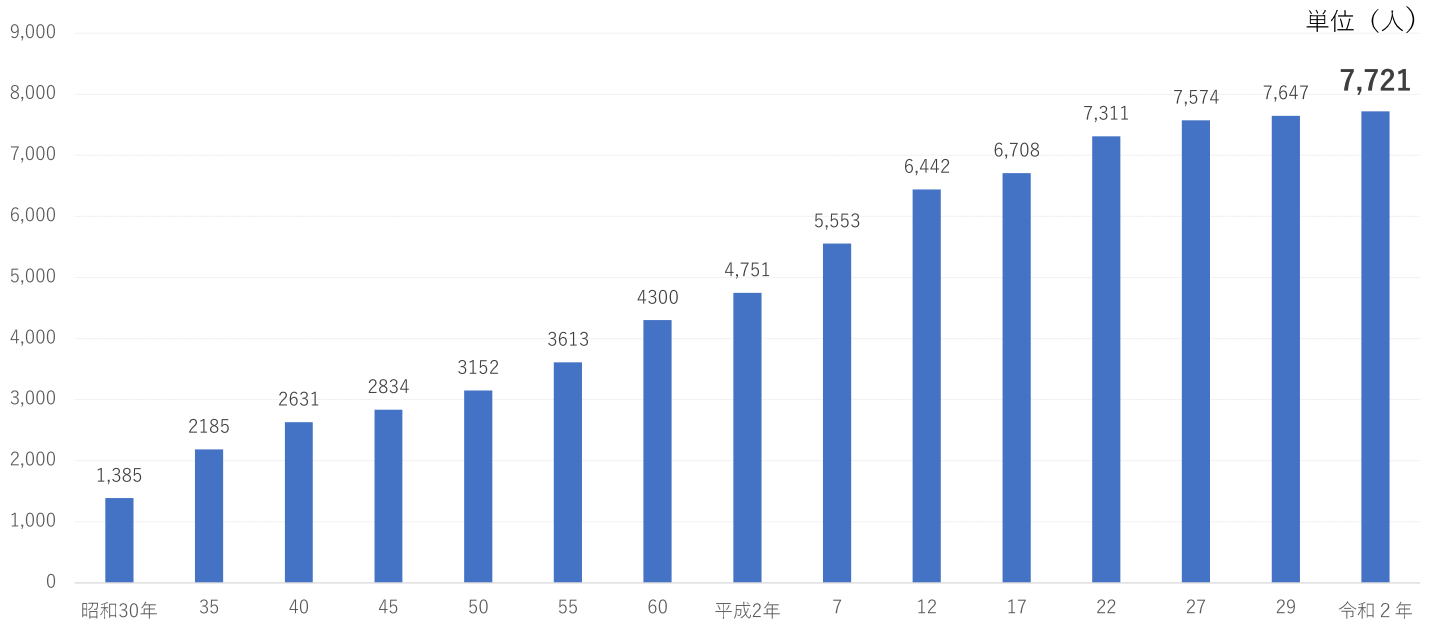
京都府死因別死亡者の状況



【出典】令和2年度人口動態統計

6

京都府悪性新生物による死亡者数の推移

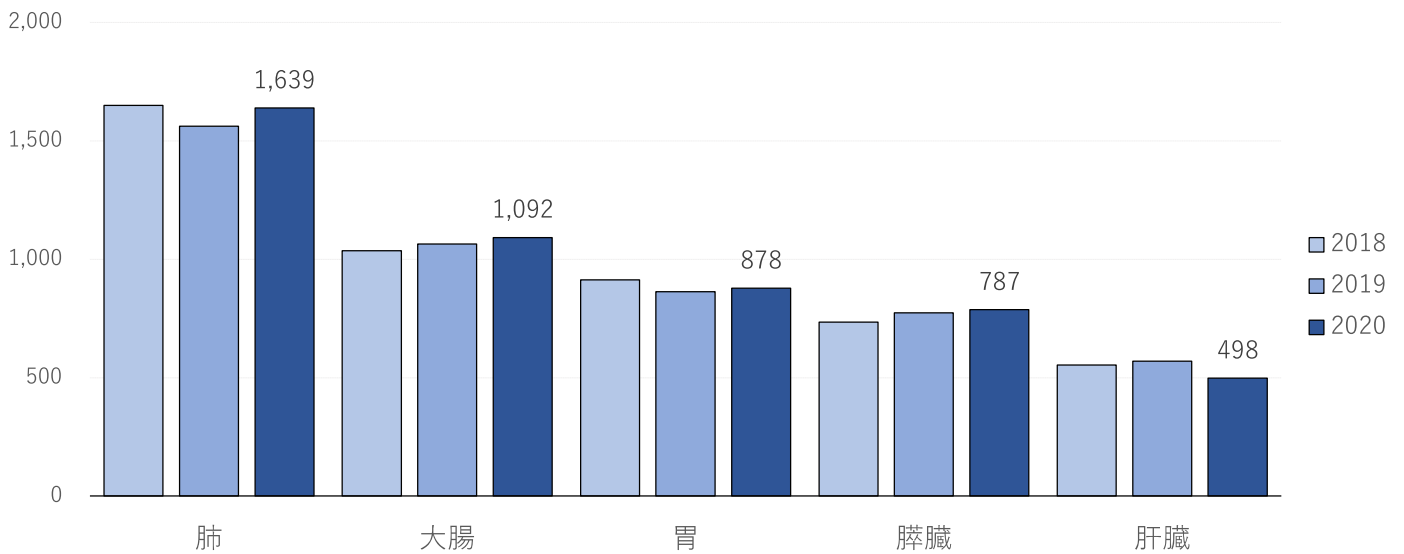


【出典】令和2年度人口動態統計

7

京都府のがんの状況～部位別死亡者数～

部位別死亡者数（単位：人）

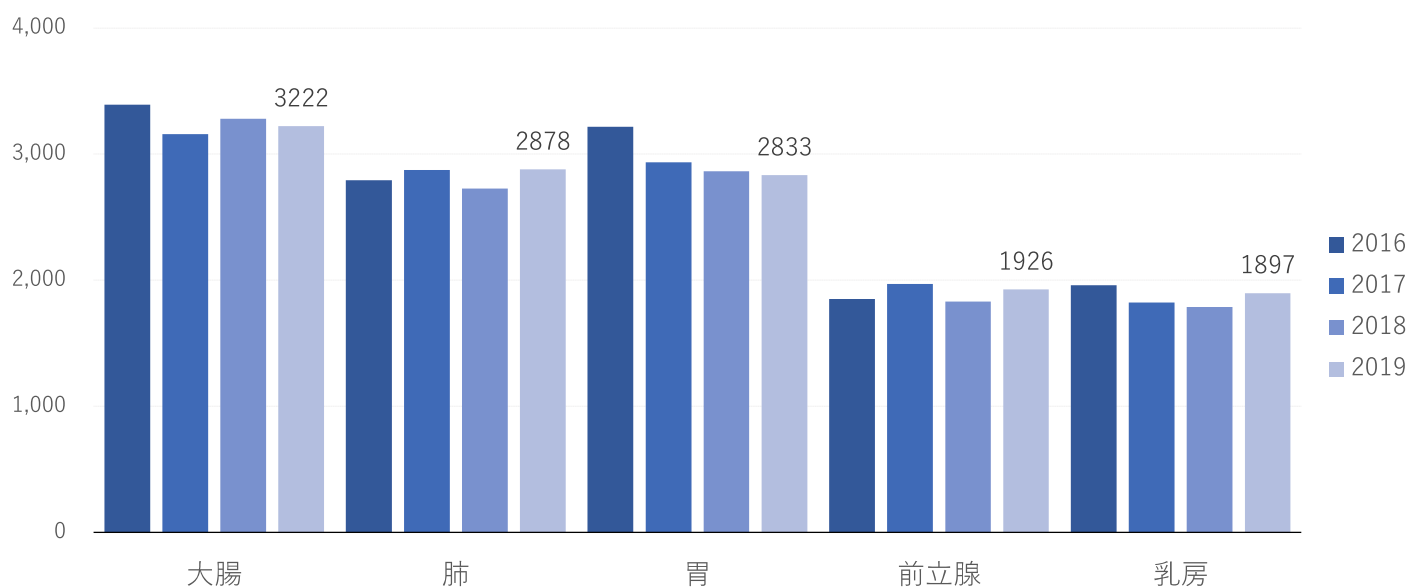


【出典】令和2年度人口動態統計

8

京都府のがんの状況～部位別罹患者数～

部位別罹患者数（単位：人）



【出典】国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）

9

令和4年7月資料

令和3年度 がん検診受診状況について

令和4年7月 京都府健康対策課 作成

- ・ 2019年度、2020年度については、地域保健健康増進事業報告、2021年度は、京都府調べ（R4年7月現在）の数値を使用。
- ・ 対象年齢は、胃がん検診（バリウム検査）40歳以上、胃がん検診（内視鏡検査）50歳以上、大腸がん検診・肺がん検診・乳がん検診40歳以上、子宮頸がん検診20歳以上とした。（通常の報告は、69歳まで）
- ・ 5大がん検診における増減率は、2019年度→2021年度の数値。

- ◆ 2021年度の延べ受診者数は27万7,327人
2020年度から20.2%増と回復したが、2019年度を11.4%下回った。
 - ・ 2020年の23万716人（前年度比26.3%減）から4万6,611人（20.2%）増加。
 - ・ 2019年の31万2,882人を3万5,555人（11.4%）下回り、コロナ流行前には達せず。

<参考> ※対がん協会の全国調査

2021年度の延べ受診者数は537万6,513人

2020年度から23.5%増と回復したが、2019年度を10.3%下回った。

- ・ 2020年の435万4,352人（前年度比27.4%減）から102万2,161人（23.5%増）増加
- ・ 2019年の599万4,398人を61万7,885人（10.3%）下回り、コロナ流行前には達せず。

◆2021年度がん検診別の状況（2019年度ベース）

胃がん検診 12.9%減（3,961人減少）
肺がん検診 27.7%減（2万2,641人減少）
大腸がん検診 7.2%減（7,255人減少）
乳がん検診 3.9%減（1,745人減少）
子宮頸がん検診 0.1%増（47人増加）

<参考> ※対がん協会の全国調査

胃がん検診 13.2%減 肺がん検診 11.0%減 大腸がん検診 9.0%減
乳がん検診 9.9%減 子宮頸がん検診 8.0%

※参考資料集5

13

◆2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続いている。

◆がん検診別では、肺がん検診の減少率が最も多かった。

受診者側の受診控えだけでなく、集団検診での受診者数の制限、予約の有無等、受診体制の変更も背景に

あると予測

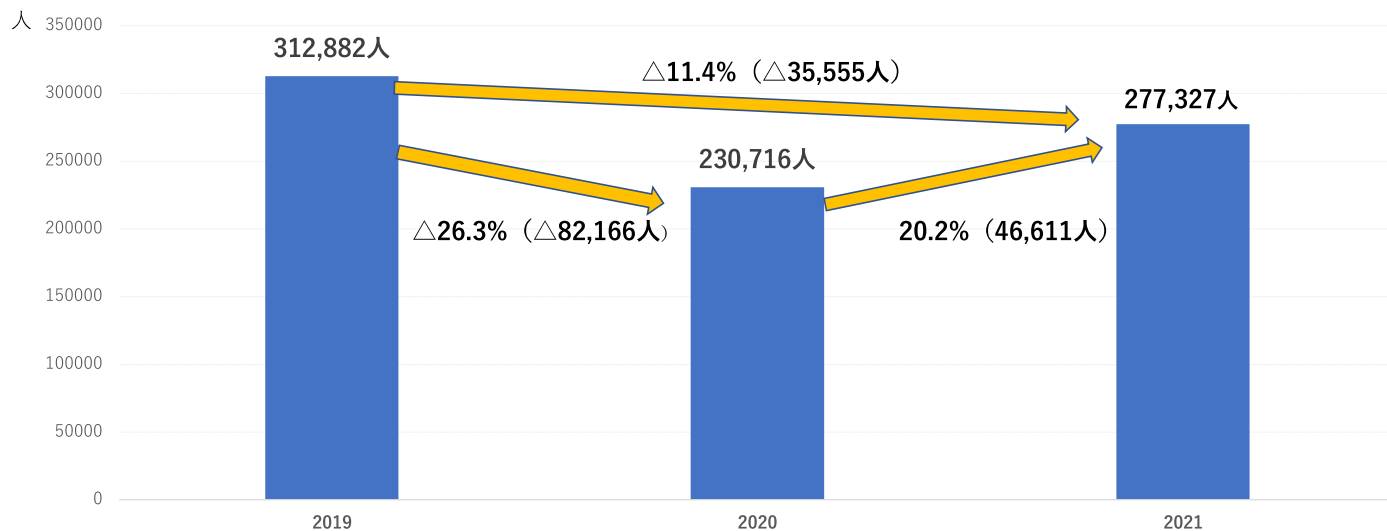
◆市町村により、増減率の差が大きい。

※参考資料集5

14

府内がん検診受診者数の推移

令和4年7月資料

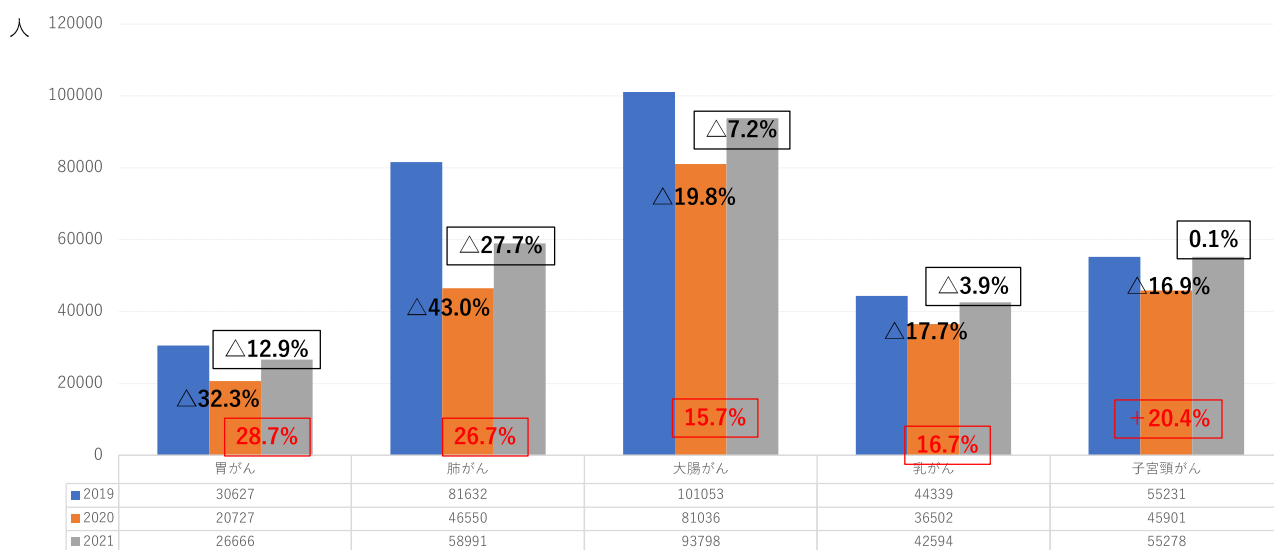


※参考資料集 5

15

5大がん検診別受診者の推移（2019年度ベース）

令和4年7月資料



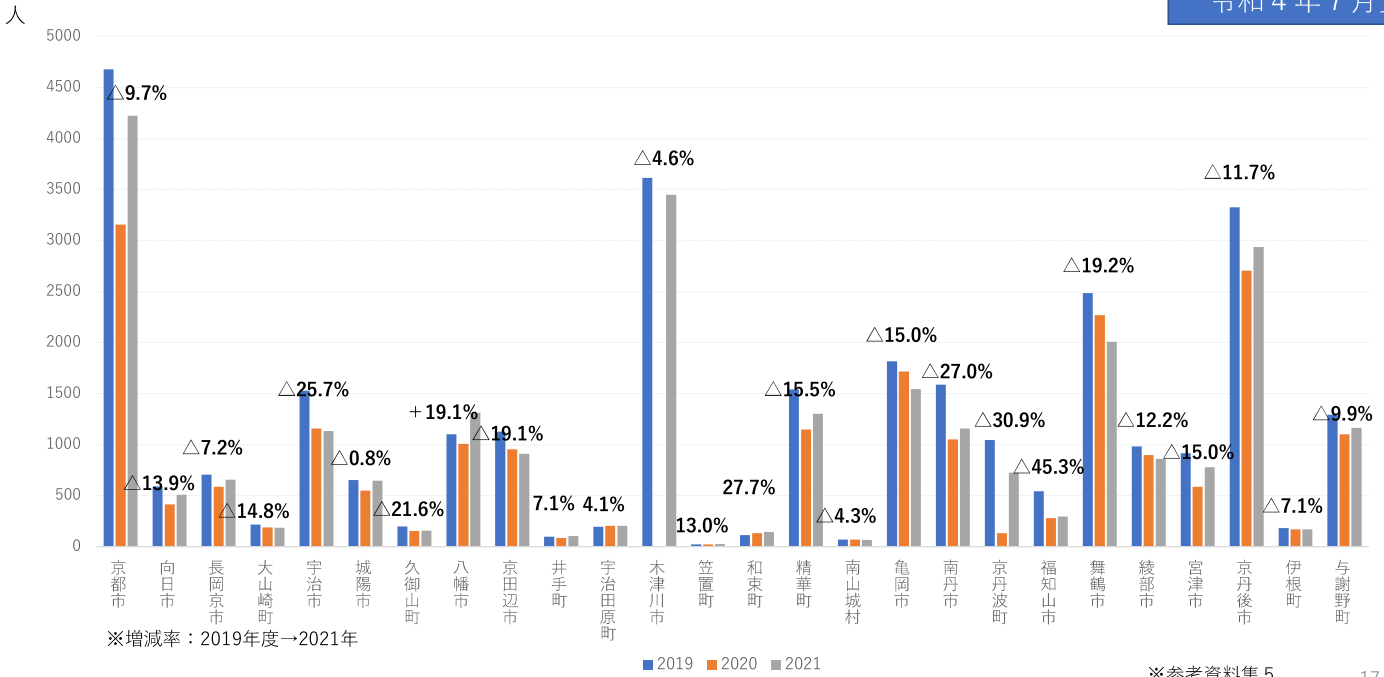
※黒字 2019→2020、囲み黒字 2019→2021、**囲み赤字** 2020→2021)

※参考資料集 5

16

胃がん検診（X線・内視鏡）受診者数と増減率（2019→2021）

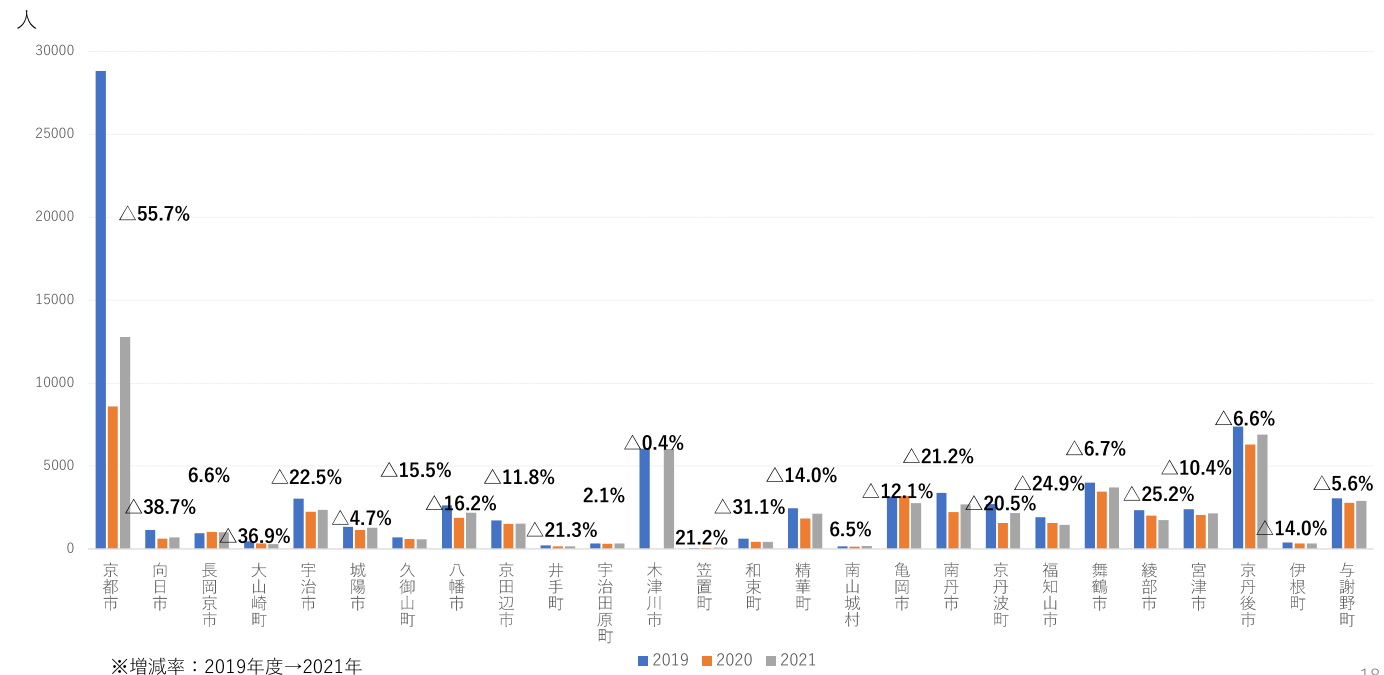
令和4年7月資料



17

肺がん検診受診者数と増減率（2019→2021）

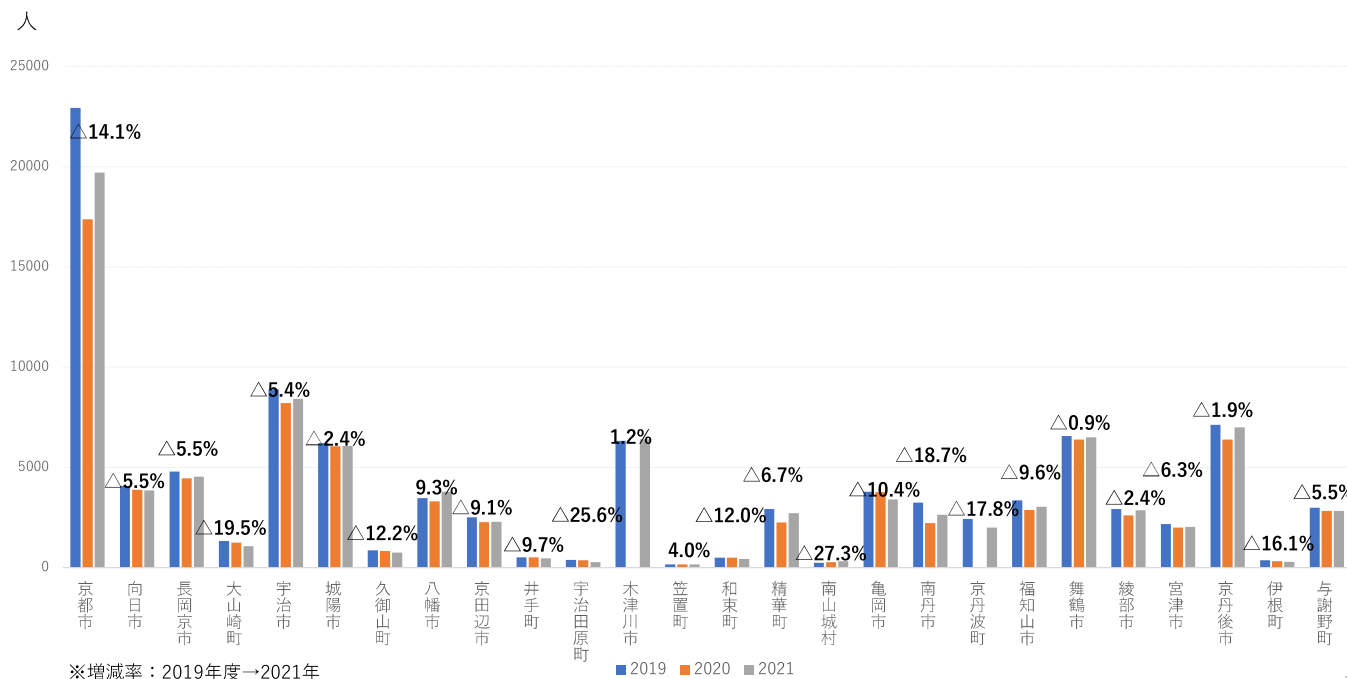
令和4年7月資料



18

大腸がん検診受診者数と増減率（2019→2021）

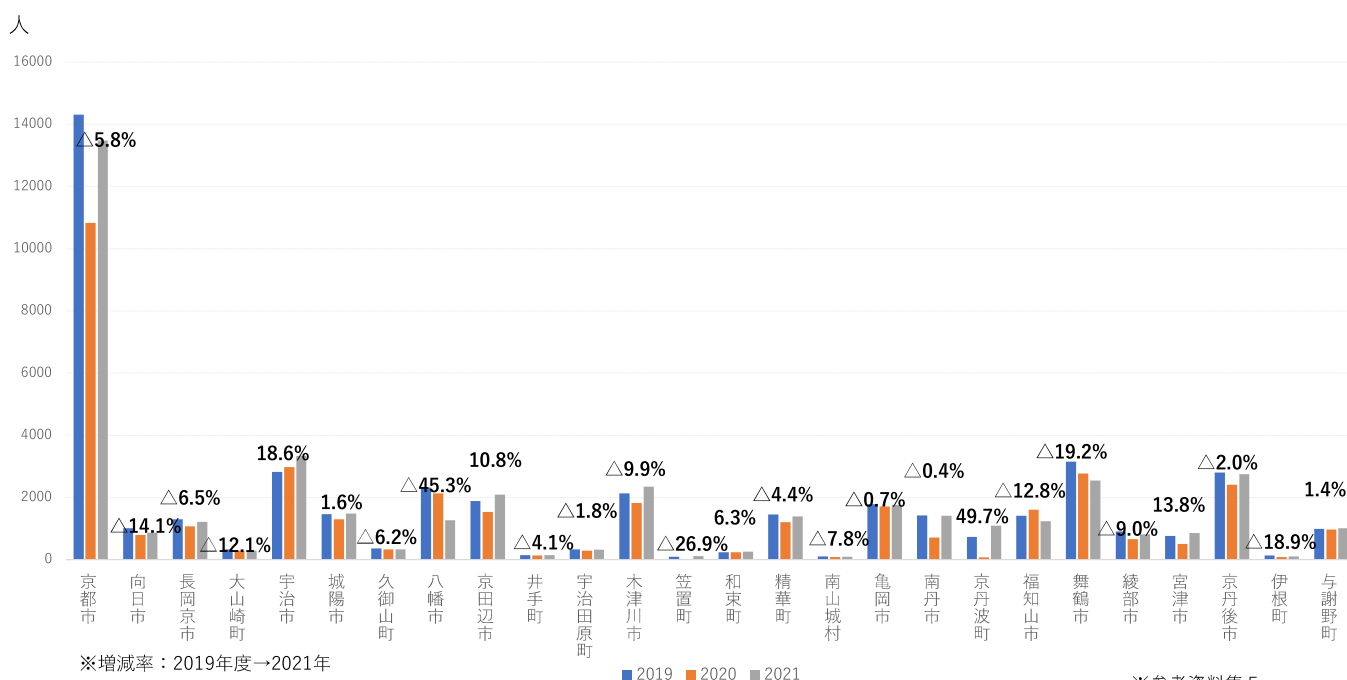
令和4年7月資料



19

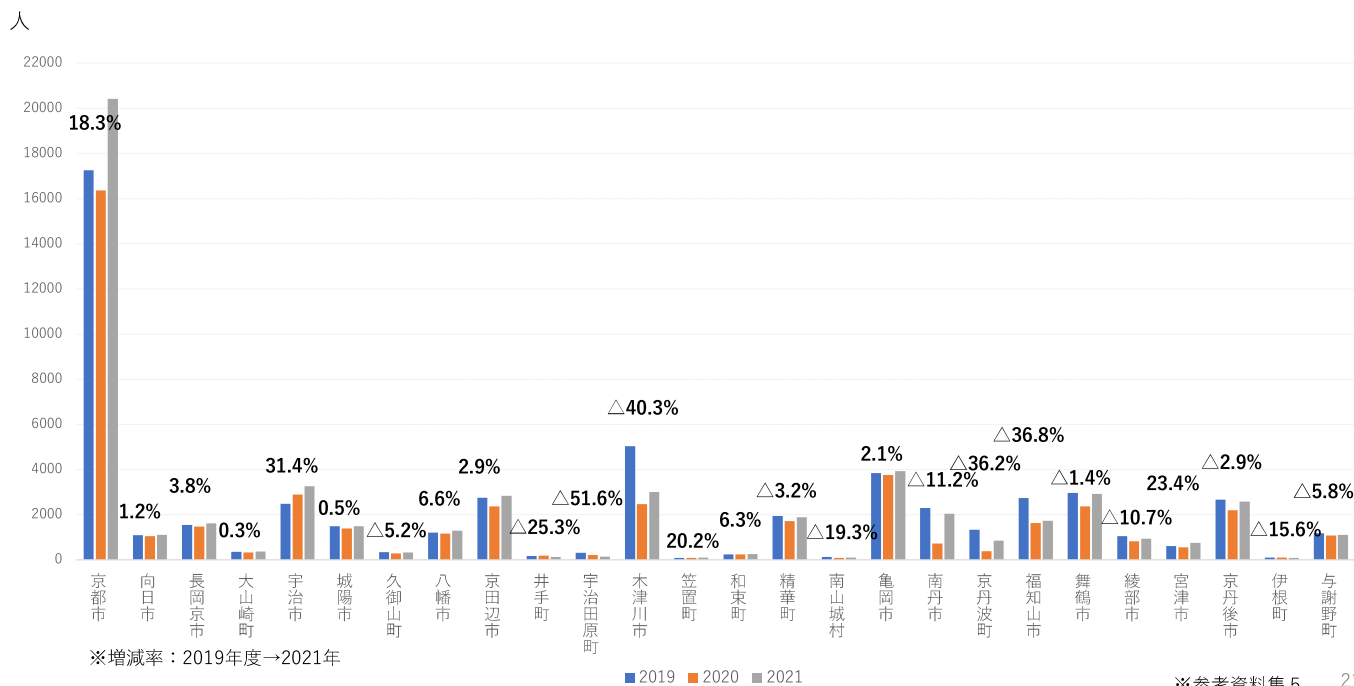
乳がん検診受診者数と増減率（2019→2021）

令和4年7月資料



※参考資料集5

20



がん検診部会の目的と内容

項目1：がん事業評価のためのチェックリスト遵守状況調査

（令和3年度の検診体制）

達成率（実施率）を5段階で評価。自己チェックの側面も大きい。

A:100%、B:90～99%（許容範囲）、C:70～98%（一部改善が必要）、

D:69%以下（改善が必要）、E:未回答 ※国の基準（都道府県毎に改変可）

項目2：精度管理指標数値の調査

（令和2年度受診率及び令和元年度プロセス指標）

評価基準は、厚生労働省「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」の許容値と目標値を使用。

- がん検診毎に状況確認し、原因や改善策を検討。
- 結果を報告市、必要に応じて個別に助言や追加調査を実施。
- 調査結果、評価結果等を京都府ホームページで公表。

プロセス指標の意味と活用方法①

プロセス指標	各指標の意味【算出方法】	許容値※1	目標値※1	各指標値の評価	備考
受診率	検診を受けるべき対象者が、実際に検診を受けたかを測る指標 【受診者数/対象者数×100】	-	全て50%以上	高いことが望ましい	【高値】望ましい※2 【低値】 ①対象者を把握していない（対象者の名簿が作成されていない） ②受診勧奨を実施していない ③検診の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）
要精検率	検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標 【要精検者数/受診者数×100】	胃：11.0%以下 大腸：7.0%以下 肺：3.0%以下 乳：11.0%以下 子宮頸部：1.4%以下※3	-	対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	【高値】 ①受診者が有病率の高い集団に偏っている ②擬陽性が多い 【低値】 ①受診者が有病率の低い集団に偏っている ②偽陰性が多い
精検受診率	要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標 【精検受診者数/要精検者数】×100	胃・大腸・肺・子宮頸部：70%以上 乳：80%以上	全て90%以上	高いことが望ましい（精検受診率が100%近くなければ、がん発見率や陽性反応適中度を適切に評価できない）	【高値】100%に近いことが理想 【低値】 ①精検受診の有無について未把握が多い ②精検結果の未把握が多い（もし精検を受診しても、その結果が把握出来ない場合は精検受診にカウントされない） ③精検受診勧奨が適切でない ④精検の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）

<出典>国立がん研究センター「自治体担当者のためのがん検診精度管理マニュアル（第2版）」より引用・改変

23

プロセス指標の意味と活用方法②

プロセス指標	各指標の意味【算出方法】	許容値※1	目標値※1	各指標値の評価	備考
精検未受診率	要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標 【未受診者数/要精検者数×100】	胃・大腸・肺・子宮頸部：20%以下 乳：10%以下	全て5%以下	低いことが望ましい（精検受診率が100%近くなければ、がん発見率や陽性反応適中度を適切に評価できない）	【高値】 ①精検の受診勧奨が適切でない ②精検の提供体制が不十分（キャパシティ、悪アクセス） 【低値】0%に近いことが理想（ただし、精検見把握率が高い場合には、見かけ上未受診率も低くなることに注意）
精検未把握率	精検受診の有無や精検結果が、適切に把握されたかを測る指標 【未把握者数/要精検者数×100】	全て10%以下	全て5%以下	低いことが望ましい（精検受診率が100%近くなければ、精検受診率、未受診率、がん発見率、陽性反応適中度を適切に評価できない）	【高値】 ①精検受診の有無について未把握が多い ②精検結果の未把握が多い（もし精検を受診しても、その結果が把握できない場合は精検受診にカウントされない） 【低値】0%に近いことが理想
がん発見率	その検診において、適正な頻度でがんを発見出来たかを測る指標 【がんであった者/受診者数×100】	胃：0.11%以上 大腸：0.13%以上 肺：0.03%以上 乳：0.23%以上 子宮頸部：0.05%以上※4	-	基本的に高いことが望ましいが、極端に高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	【極端に高値】 受診者が有病率の高い集団に偏っている 【低値】※5 ①受診者が有病率の低い集団に偏っている ②偽陰性が多い

<出典>国立がん研究センター「自治体担当者のためのがん検診精度管理マニュアル（第2版）」より引用・改変

24

プロセス指標の意味と活用方法③

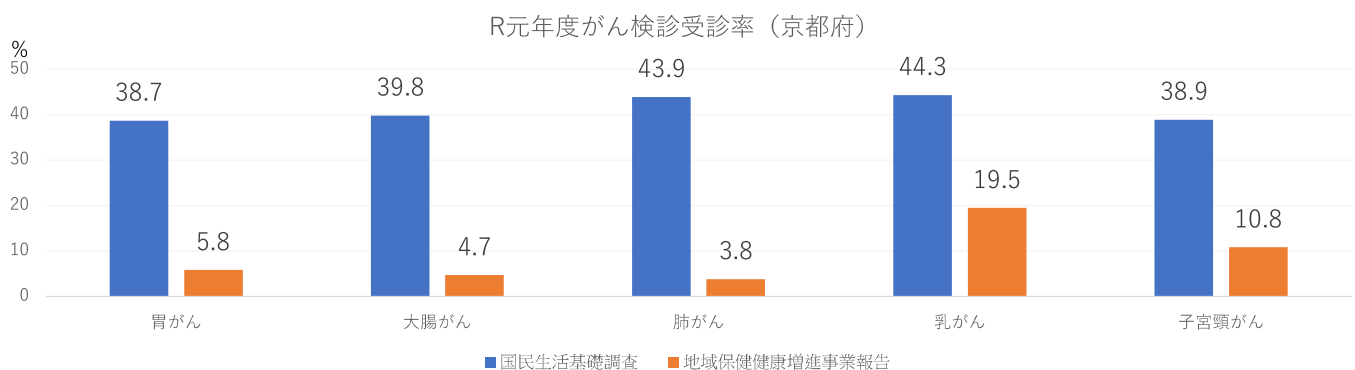
プロセス指標	各指標の意味【算出方法】	許容値※1	目標値※1	各指標値の評価	備考
陽性反応適中度	その検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標（検診の精度を測る指標） 【がんであった者/要精検者数×100】	胃：1.0%以上 大腸：1.9%以上 肺：1.3%以上 乳：2.5%以上 子宮頸部：4.0%以上※4	-	基本的に高いことが望ましいが、極端に高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	【極端に高値】 受診者が有病率の高い集団に偏っている 【低値】※5 ①受診者が有病率の低い集団に偏っている ②偽陰性が多い

- ※1 出典：厚生労働省 がん検診事業の評価に関する委員会報告書「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について（平成20年3月）」ただし、受診率の目標値については、厚生労働省がん対策推進基本計画（平成30年3月）
- ※2 がん検診によって死亡率を減少させるためには、検診の質を高く保つことが第一の条件で、その上で受診率を上げていく必要がある。つまり、受診率を上げることも重要だが、それ以上にその他の指標（特に精検受診率）の改善が重要。
- ※3 子宮頸がん検診の要精検率は近年増加傾向にあり、国の許容値を満たしていない都道府県が増加。要精検率増加の一因として、国の補助事業の無料クーポン券導入（2009年）の影響が考えられる。無料クーポン券の配布対象は原則はじめて受診する人で、この事業開始後に若年の受診者が増えていることが分かっている。このことから、近年罹患率の高い集団が多く受診するようになり、その結果、要精検率が増加傾向にあることが考えられている。ただし、その原因はまだ明確に特定されておらず、今後の検討課題である。
- ※4 「地域保健・健康増進事業報告」の様式が改定され、H25年度までの報告では「上皮内がん」として「がんで会った者」に計上されていたものが、H26年度以降の報告では「CIN3」として計上されるようになった。
- ※5 陽性反応適中度とがん発見率は、「精検受診率が低い場合」、「自治体の精検結果の把握状況に漏れがある場合」正確に評価できない。

<出典>国立がん研究センター「自治体担当者のためのがん検診精度管理マニュアル（第2版）」より引用・改変

25

がん検診受診率には2つある



国民生活基礎調査

抽出された世帯に対する質問票で把握した**推計値**。指針外の検査法も対象となる。がん対策推進基本計画の評価指標。3年に1度の調査。

地域保健健康増進事業報告

自治体実施している対策型検診を受診した**実測値**。職場や人間ドックで受診した人は含まれない。毎年の調査。

※参考資料集3 P11・13 26

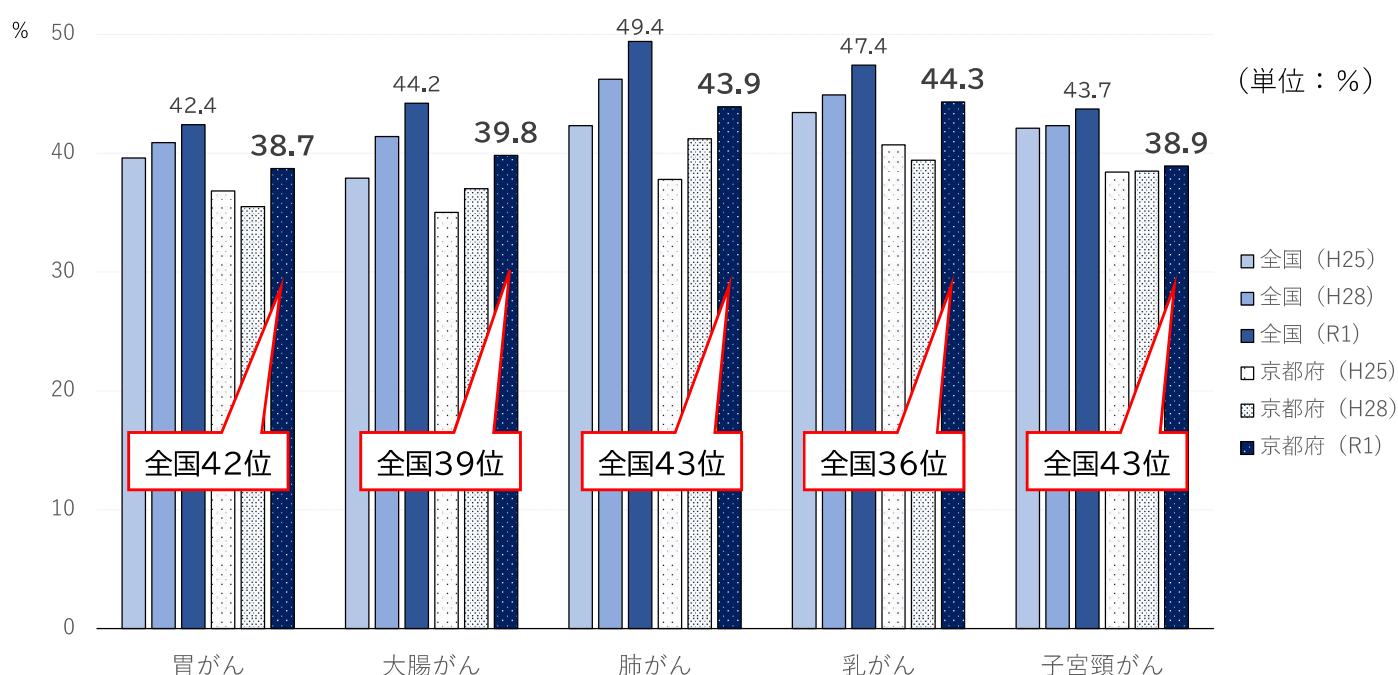
R4年度京都市内市町村のがん検診の実施状況（京都府調べ）

R4年度	検査方法		検査方式		備考（課題・現状等）
			集団	個別	
胃がん	胃部エックス線検査	26	25	1	受診率が全国と比較しても低い。
	胃内視鏡検査	3	0	3	導入に向けて各市町村で検討中
肺がん	胸部X線 + 喀痰細胞診	26	26	0	個別方式はゼロ。導入には精度管理が課題。
大腸がん	便潜血二日法	26	21	16	精密検査受診率が低い。
乳がん	マンモグラフィ	23	19	20	R3指針の改正により、集団方式では一定の条件のもと医師の立ち会いが不要になった。
	マンモ + 視触診	3	0	3	
	エコー	0	0	0	R3より、京都市においてエコー検診が廃止
子宮頸がん	頸部細胞診	26	13	25	

※京都市内検診実施自治体数（N=26自治体）

※参考資料集4 1・2 実施内容と実施時期（胃・肺・大腸・乳・子宮） 27

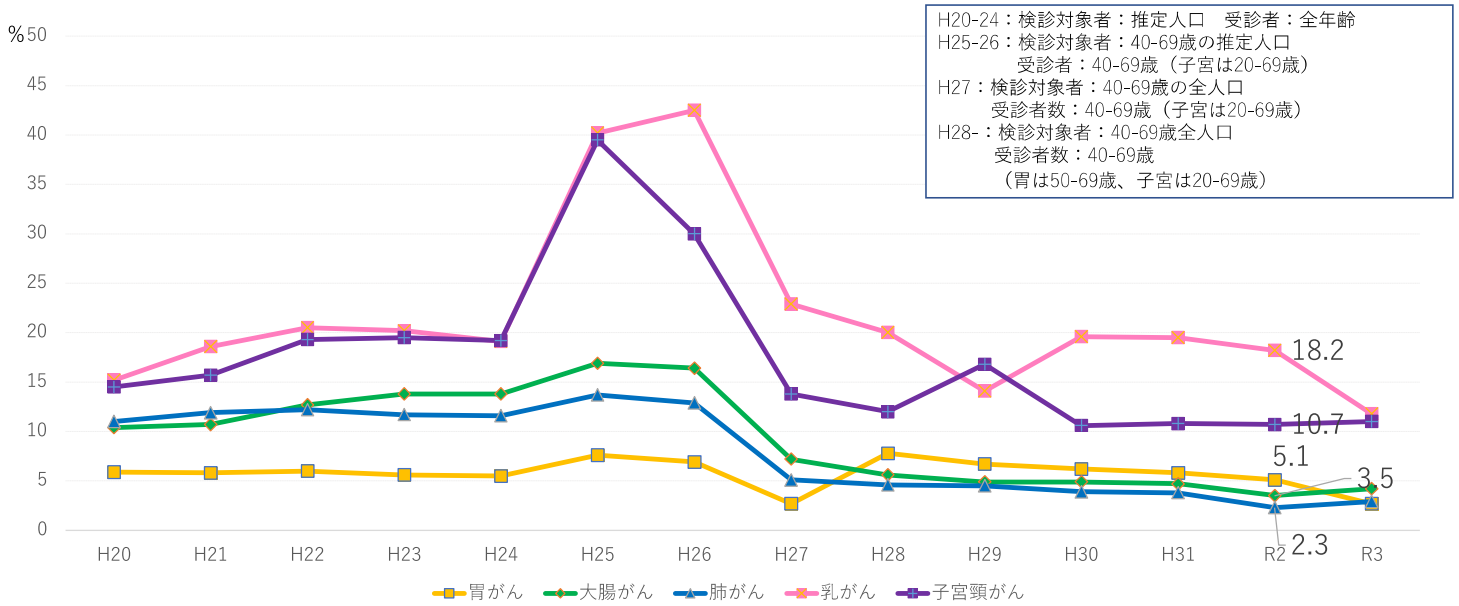
国民生活基礎調査での京都府がん検診受診率



<出典>国民生活基礎調査

※参考資料集3 P11 28

京都府がん検診受診率の推移（地域保健健康増進事業報告）

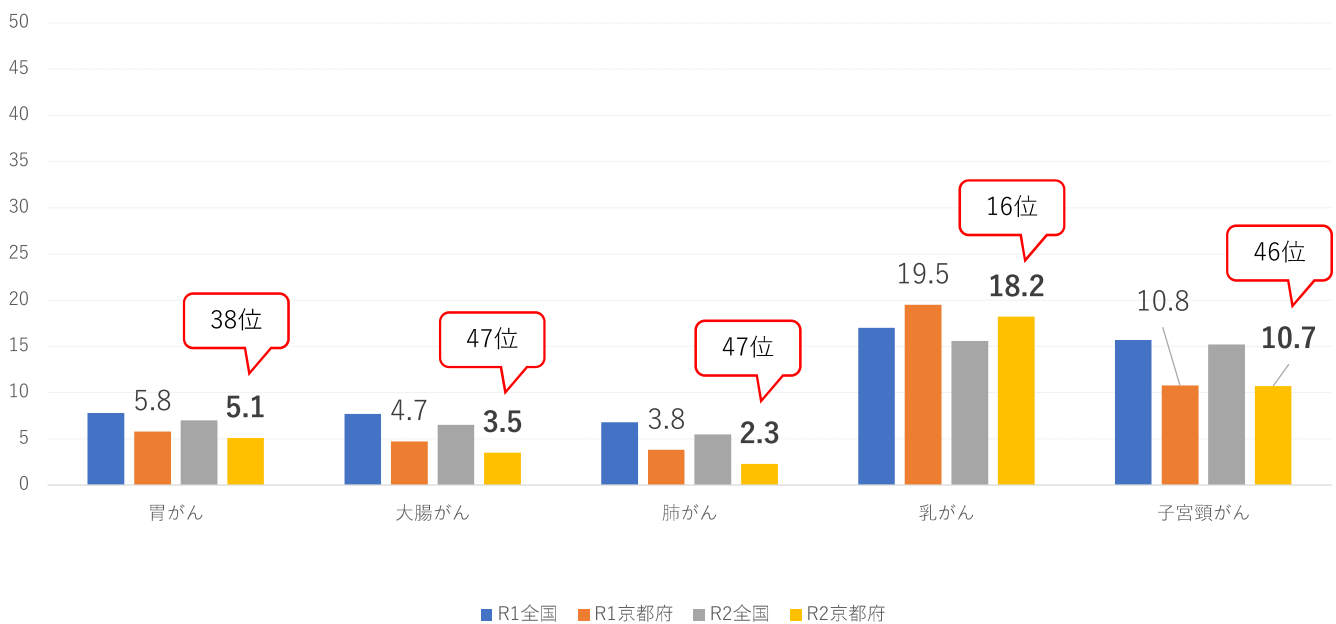


受診率の算定方法が年々変わっているため、単純に比較が出来ない点に注意が必要

<出典> 地域保健健康増進事業報告、R3のみ京都府調べ

29

R1, 2年度地域保健健康増進事業報告での京都府がん検診受診率



<出典> 地域保健健康増進事業報告

※参考資料集3 P13・15 30

R1年度市町村プロセス指標（地域保健健康増進事業報告）

	胃がん (集団 ・X線)	胃がん (個別 ・内視鏡)	大腸がん (集団)	大腸がん (個別)	肺がん (集団)	乳がん (集団)	乳がん (個別)	子宮頸がん (集団)	子宮頸がん (個別)
受診率<R2年度> ()は全国値	5.1 (7.0)		3.5 (6.5)		2.3 (5.5)	18.2 (15.6)		10.7 (15.2)	
要精検率	5.6% (11%以下)	3.7% (11%以下)	7.1% (7.0%以下)	7.5% (7.0%以下)	2.4% (3.0%以下)	4.2% (11.0%以下)	6.0% (11.0%以下)	2.7% (1.4%以下)	3.2% (1.4%以下)
精検受診率	83.7% (70%以上)	51.8% (70%以上)	71.8% (70%以上)	71.6% (70%以上)	89.2% (70%以上)	95.2% (80%以上)	95.0% (80%以上)	81.9% (70%以上)	81.0% (70%以上)
精検未受診率	11.6% (20%以下)	48.2% (20%以下)	18.7% (20%以下)	11.1% (20%以下)	7.0% (20%以下)	3.4% (10%以下)	3.0% (10%以下)	7.3% (20%以下)	13.2% (20%以下)
精検未把握率	4.7% (10%以下)	0.0% (10%以下)	9.4% (10%以下)	17.3% (10%以下)	3.8% (10%以下)	1.4% (10%以下)	2.0% (10%以下)	10.8% (10%以下)	5.8% (10%以下)
がん発見率	0.11% (0.11%以上)	0.13% (0.11%以上)	0.15% (0.13%以上)	0.27% (0.13%以上)	0.03% (0.03%以上)	0.24% (0.23%以上)	0.32% (0.23%以上)	0.01% (0.05%以上)	0.02% (0.05%以上)
陽性反応適中度	1.9% (1.0%以上)	3.6% (1.0%以上)	2.1% (1.9%以上)	3.7% (1.9%以上)	1.2% (1.3%以上)	5.8% (2.5%以上)	5.2% (2.5%以上)	0.4% (4.0%以上)	0.5% (4.0%以上)

○要精検率からがん発見率の下段は許容値

○プロセス指標は74歳以下、受診率は69歳以下

※参考資料集3 P21-32

31

R3年度市町村チェックリスト<全体の傾向>

○集団検診 がん検診別チェックリスト達成率（遵守率）

	胃（X線）	大腸	肺	乳	子宮
京都府	77.5	75.0	76.9	74.2	69.7
全国	81.8	81.4	81.5	82.0	81.7
順位	34位	39位	35位	39位	41位

○個別検診 がん検診別チェックリスト達成率（遵守率）

	胃（X線）	胃（内視鏡）	大腸	乳	子宮
京都府	80.8	75.0	72.2	75.3	68.9
全国	72.2	75.1	73.4	74.4	74.8
順位	19位	26位	29位	28位	36位

- ・昨年度とほぼ同様の状況。
- ・全体として、全国平均よりやや低く、市町村により、ばらつきが大きい。
- ・検診機関の質の担保、がん発見率、陽性反応適中度、早期がん割合等の把握
→どの検診においても、比較的達成率が低い
- ・検診対象者・受診者の精度管理、検診結果・精密検査結果の把握と受診勧奨、受診率、要精検率の把握
→どの検診においても、達成率が高い

※参考資料集3 P37-46

32

R3年度検診機関チェックリスト<全体の傾向>

- ◆昨年度と比較して改善傾向。
- ◆受診者への説明 (Q1)については、5つの検診とも全て達成。
- ◆乳がん検診は、全項目達成。
- ◆未達成項目 (一部抜粋)
 - 要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度のプロセス指標の把握
→検診機関により差が見られる。
 - 検診結果の通知 (胃がん内視鏡・大腸がん・肺がん)
 - 読影に関する項目 (胃がん内視鏡の読影委員会、肺がんの読影医師の要件等)
 - 検体が不適正との判定を受けた場合の対応 (子宮頸がん)
 - がん発見例の、過去の細胞所見の見直し (肺がん・子宮頸がん)
 - 細胞診業務の委託機関名を仕様書に明記 (子宮頸がん)

※参考資料集3 P83-94

33

R2年度都道府県チェックリスト

<目的>

都道府県が、市区町村や検診機関の体制や検診データを把握し、適切な精度管理を行っているかを評価するもの。都道府県が自己点検を行うことも目的。

<結果評価>

- ・例年実施されている評価 (A~Eの5段階評価) は、現在、評価指標の見直しにより、なし。
- ・H30、R1年度は、5大がん全てについてB評価 (A評価は福井県のみ)
- ・京都府では「9 評価の改善策とフィードバック」について、個々の市町村、検診機関に対し、個別のフィードバック、指導、改善策の実施状況の把握を実施していない。
- ・今後、実施有無、実施方法等を含め検討予定。
- ・その他の項目については、ほぼ達成。

<見本> <別紙4>

1 チェックリスト (精度管理向上に関する項目) について (29年度)		達成状況								
チェックリスト項目 (②精検受診率向上に関する項目)		胃がん (X線)	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮 頸がん	胃がん (内視鏡)	大腸がん	肺がん	子宮 頸がん
Q3-2	要精検者全員に対し、精密検査医 療機関名の一覧表を指示	×	×	○	○	×	-	-	×	×
Q3-2-1	Q3-2の一覧に掲載したすべての 医療機関に、目的の精密検査 結果の報告を依頼	-	-	○	○	-	-	-	-	-
Q4-1	精密検査の検査方法及び結果を把握	○	○	○	○	-	-	○	-	○
Q4-2	精密検査方法及び結果が不明確に ついて本人もしくは医療機関への 指示による結果把握	○	○	○	○	-	-	○	-	○
Q4-3	個人毎の精密検査方法及び結果を 把握し、検査機関と委託機 関との精密検査機関が共有	○	○	○	○	-	-	○	-	○
Q4-4	過去5年間の精密検査結果を記録 し(20年から)過去5年分	○	○	○	○	-	-	○	-	○
Q4-5	精密検査未受診者と未受診を定額 定額として区別し、精密検査未受診者 を特定しなが	○	○	○	○	-	-	○	-	○
Q4-6	精密検査未受診者に精検の受診勧奨	○	○	○	○	-	-	○	-	○

2 プロセス指標 (精検受診率) について (27年度)		胃がん (X線)	胃がん (内視鏡)	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
精検受診率 (%)	70	70	70	70	70	70	70
要精検率	100	100	100	100	100	100	100
要検診率	-	-	80	-	-	-	-

3 指針外の方法で実施しているがん検診について (30年度)		胃がん (X線)	胃がん (内視鏡)	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
指針外の実施方法の有無	-	-	-	-	-	○	○
実施有無	-	-	-	-	-	○	○
その内容	-	-	-	-	-	○	○

※参考資料集3 P95-98

34

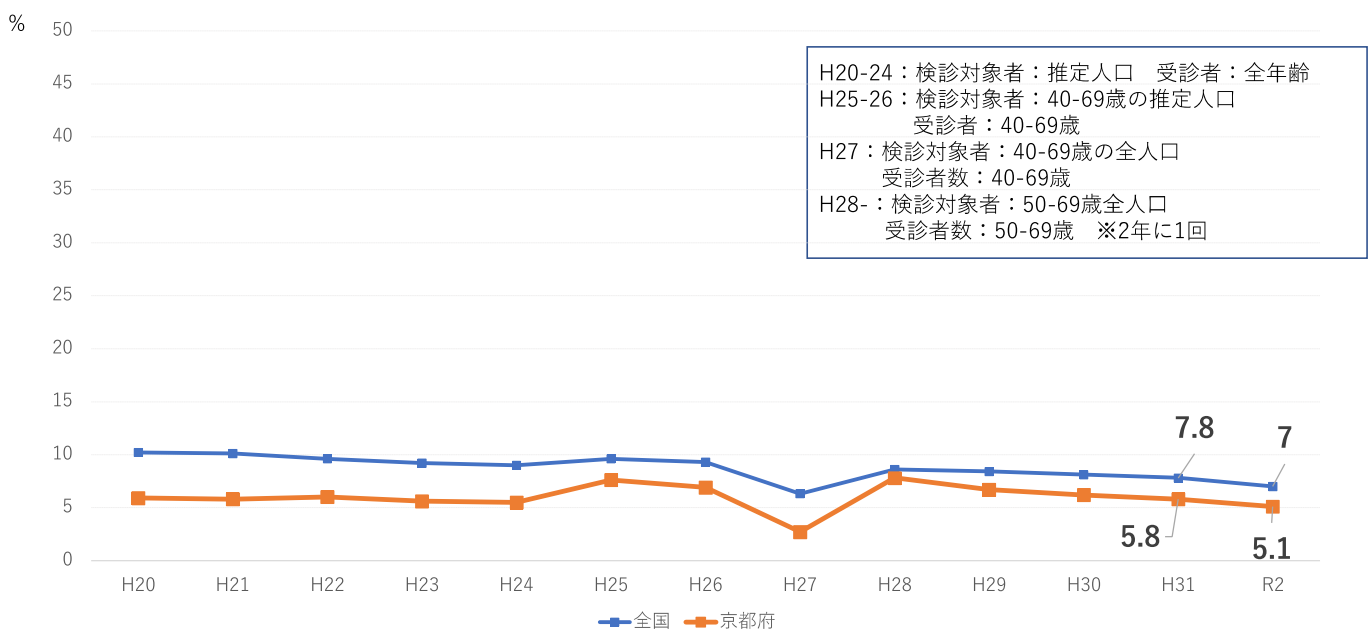
胃がん検診（胃部エックス線検査・胃部内視鏡検査）

項目	内容
対象者	50歳以上（当分の間、胃部エックス線検査に関しては、40歳以上に実施しても可）
検診間隔	2年に1回（当分の間、胃部エックス線検査に関しては、年1回の受診も可）
検診項目	問診に加え、胃部エックス線検査もしくは、胃内視鏡検査のいずれか
地域保健・健康増進事業報告（受診率）	50～69歳の受診者。検診対象者は、同年代の全人口。2年連続受診者は差し引いて算出。
府内の状況（R4年度）	<ul style="list-style-type: none"> ◆胃部エックス線検査単独 23市町村（全て集団方式） ◆胃部エックス線検査と胃内視鏡検査併用 3市町村（胃部エックス線検査：2市町村は集団方式、1市町村は個別方式、胃内視鏡検査：3市町村とも個別方式）
R1年度受診者数とがん発見数（40～74歳）	胃部エックス線検査（受診者数 23,200人 、がん発見数 25人 ） 胃内視鏡検査（受診者数 1,534人 、がん発見数 2人 ）

※参考資料集3 P21-24

35

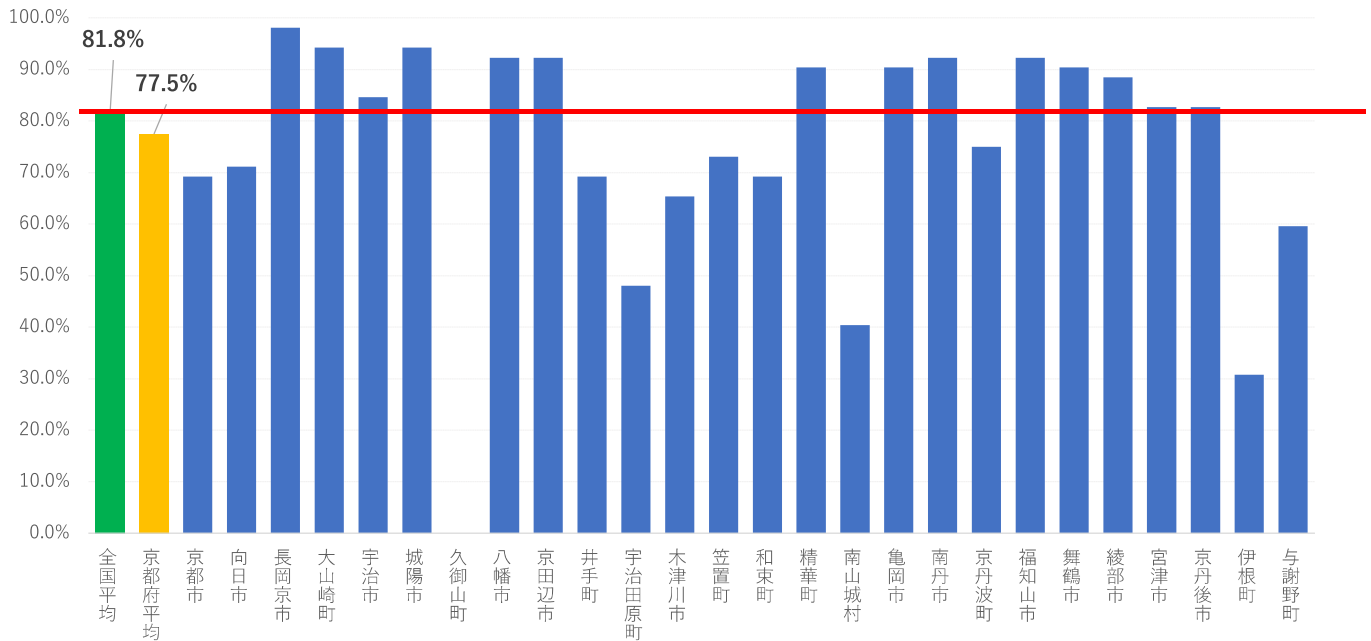
胃がん検診（胃部エックス線検査・胃部内視鏡検査）受診率推移



<出典> 地域保健健康増進事業報告

36

市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞胃がん・エックス線（集団）

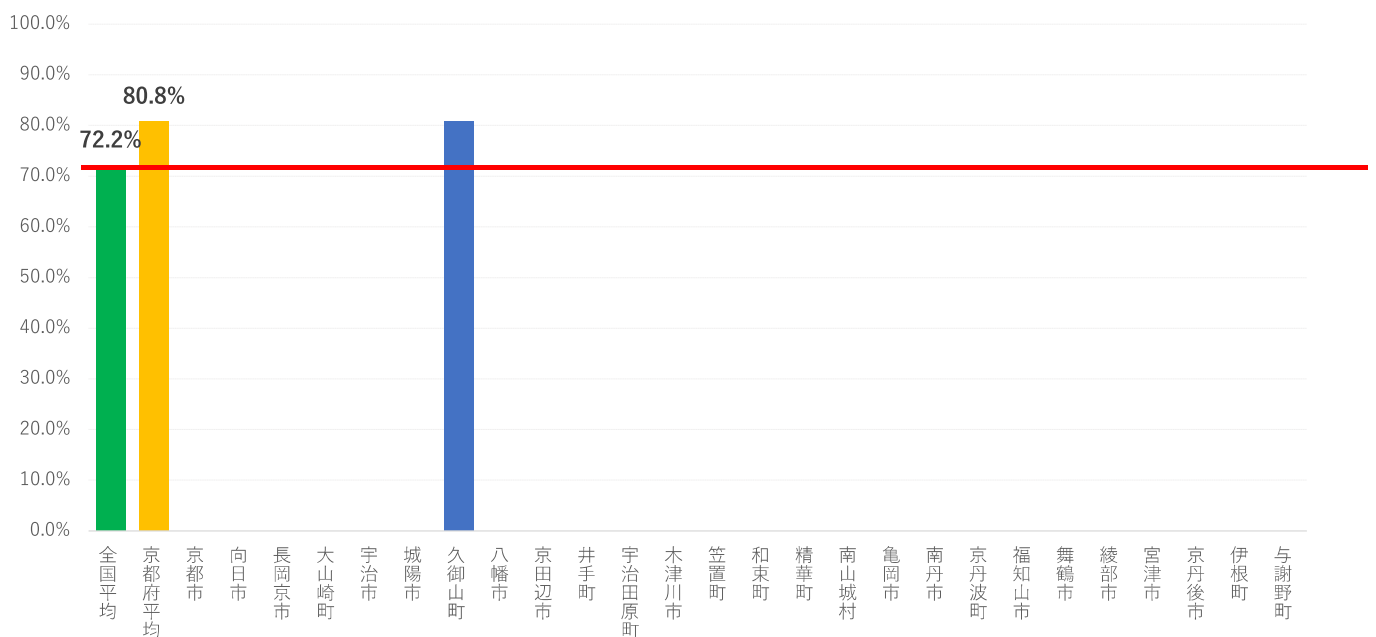


＜出典＞地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査

※参考資料集3 P37

37

市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞胃がん・エックス線（個別）

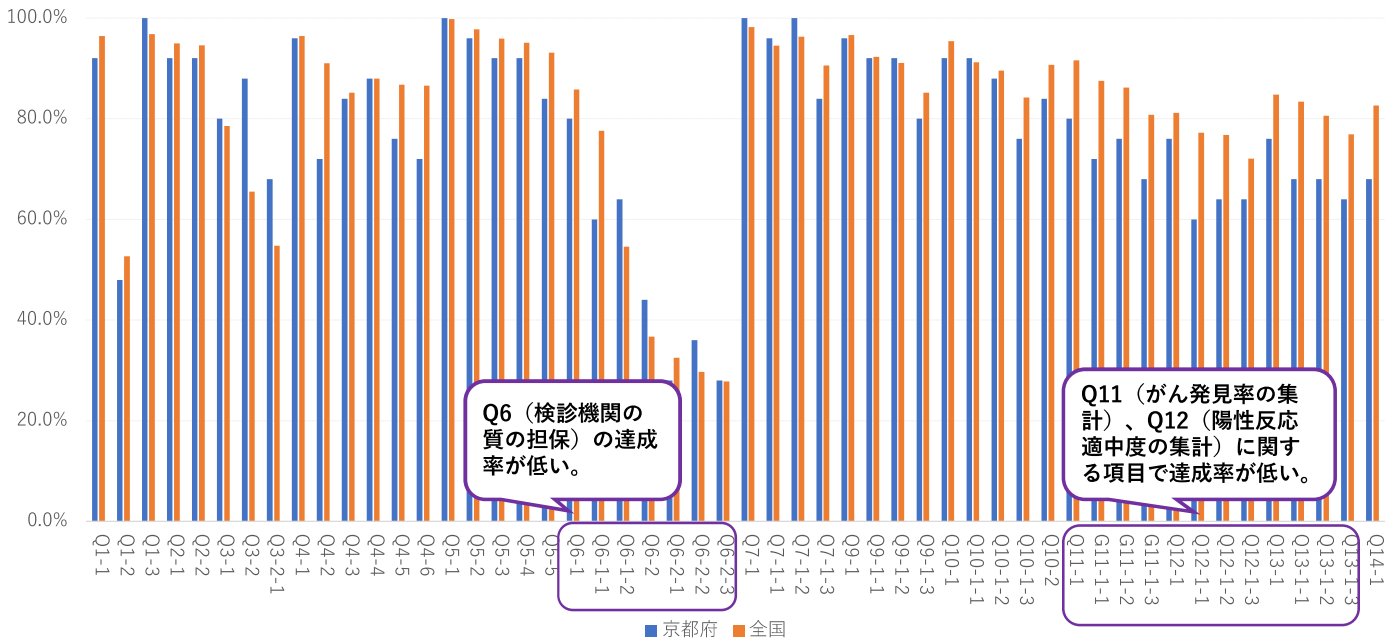


＜出典＞地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査

※参考資料集3 P37

38

市町村チェックリスト達成率<項目別>胃がん・エックス線 (集団)

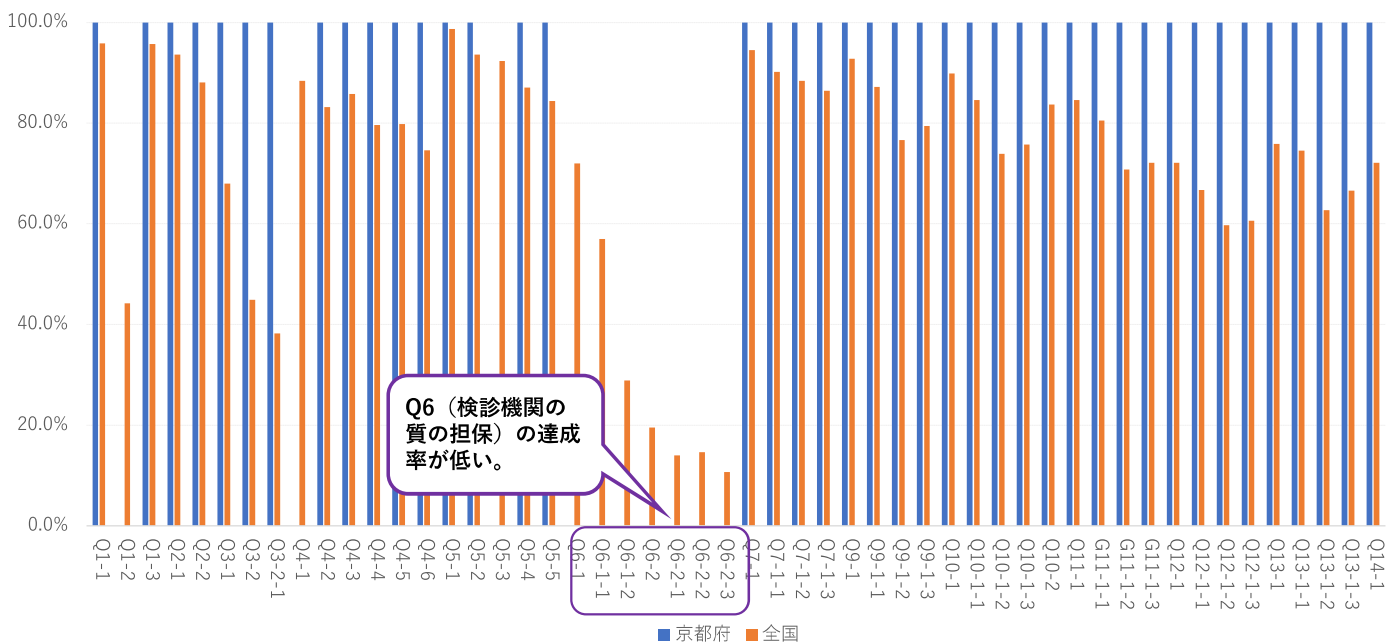


<出典> 地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査 R3: N=25 R1: N=25

※参考資料集3 P39-42

39

市町村チェックリスト達成率<項目別>胃がん・エックス線 (個別)

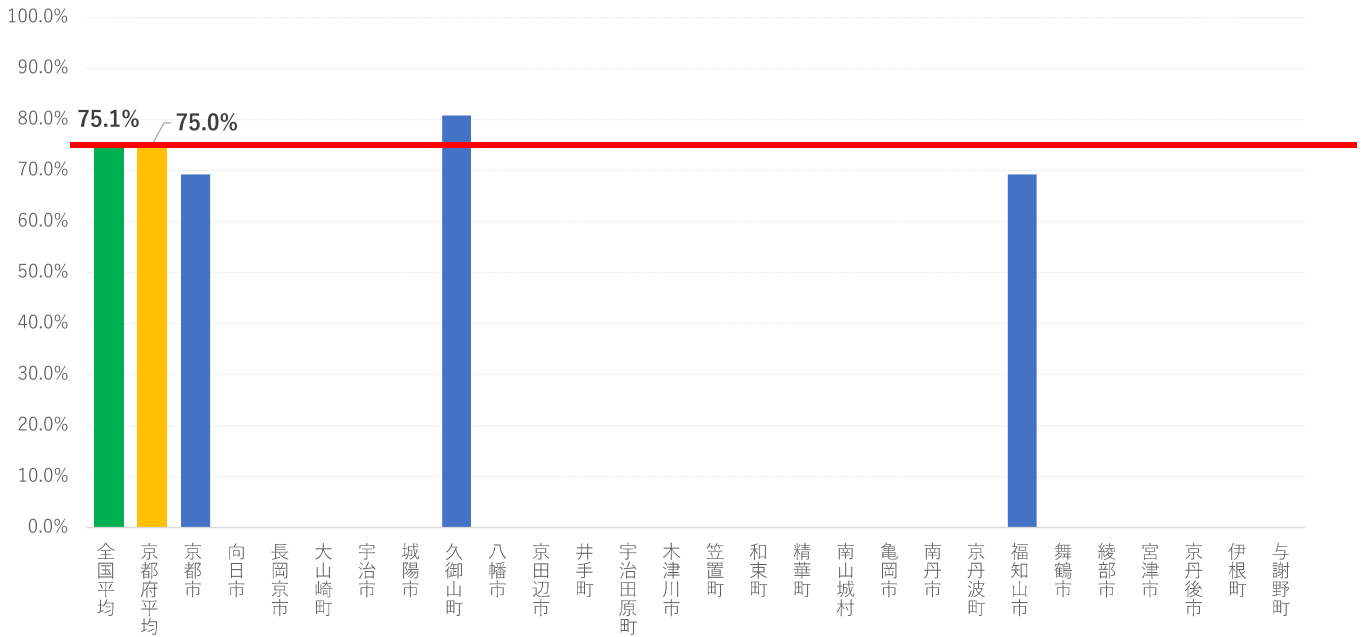


<出典> 地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査 R3: N=1 R1: N=1

※参考資料集3 P43-46

40

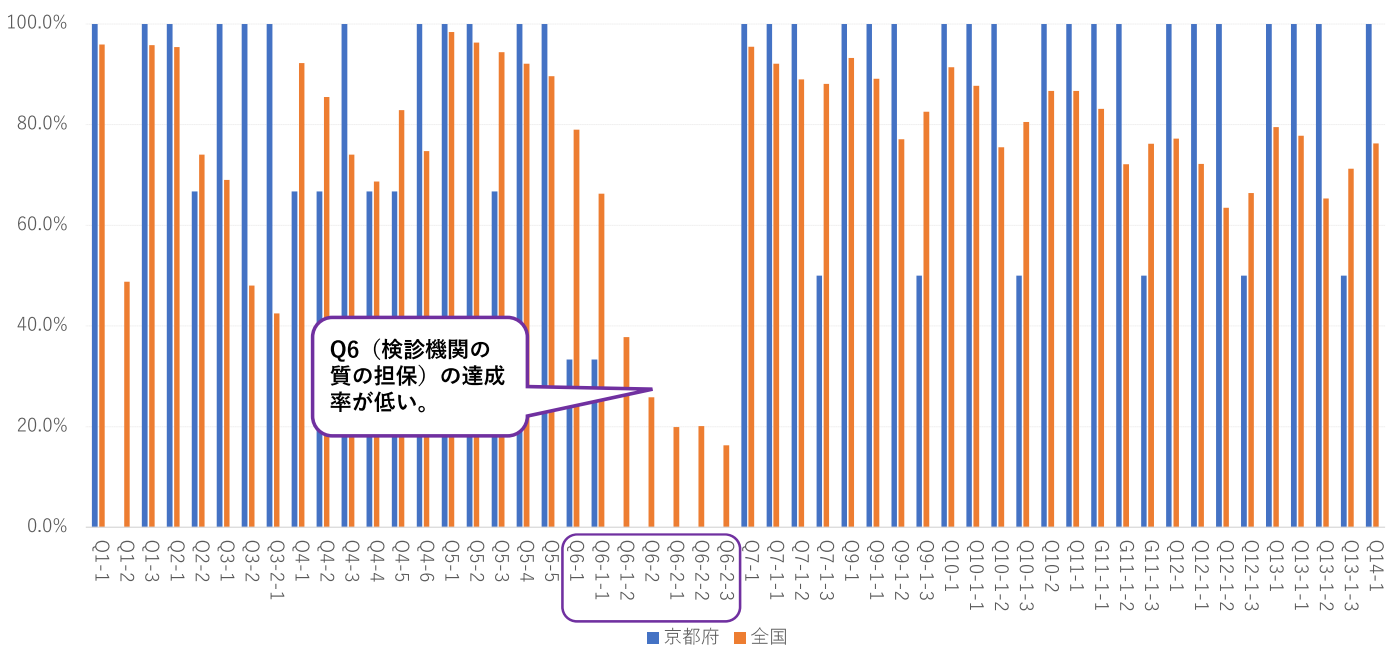
市町村チェックリスト達成率＜市町村別＞胃がん・内視鏡検査（個別）



＜出典＞地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査 R3:N=3 R1: N=2

※参考資料集3 P37

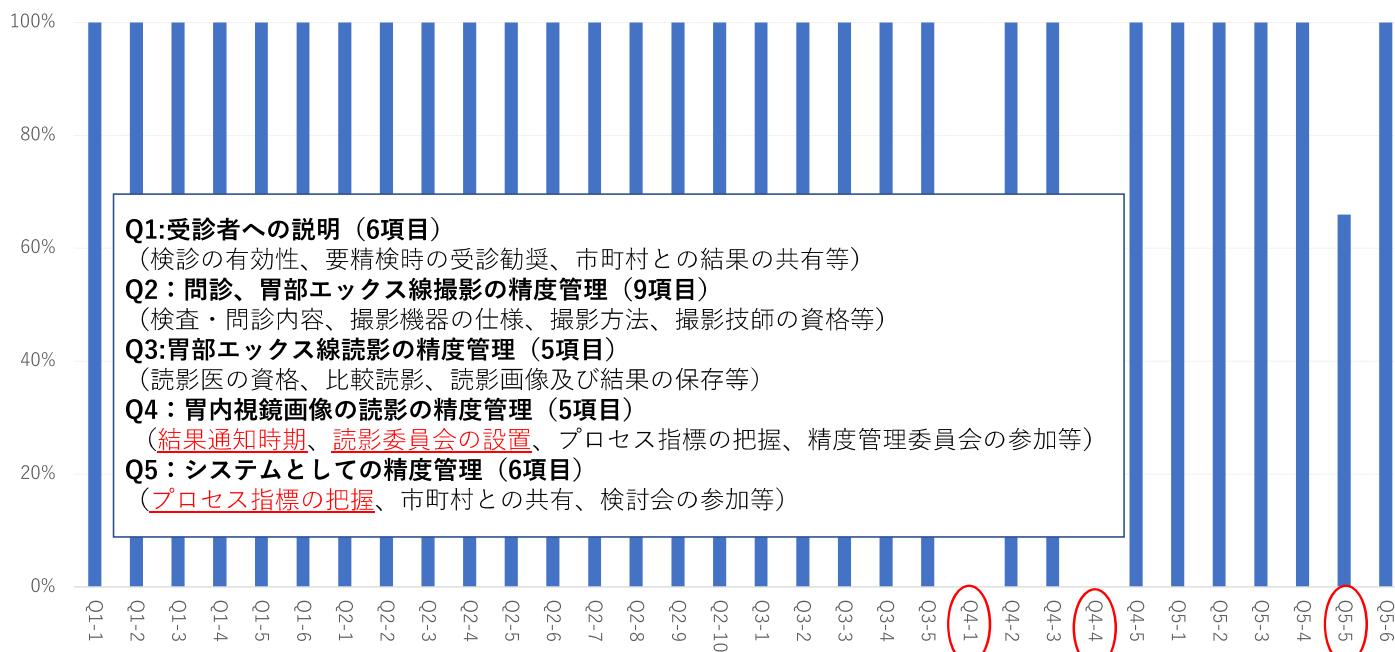
市町村チェックリスト達成率＜項目別＞胃がん・内視鏡検査（個別）



＜出典＞地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査 R3:N=3 R1: N=2

※参考資料集3 P43-46

検診機関チェックリスト達成率<項目別> 胃がん検診

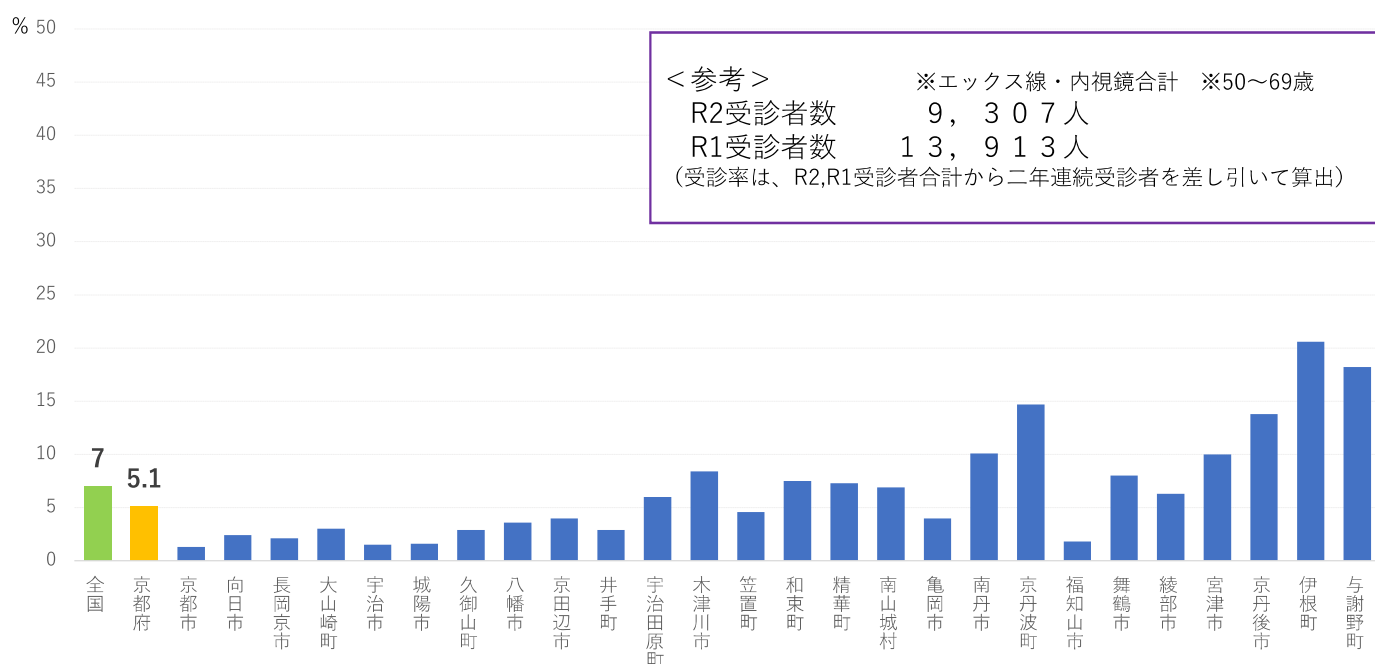


<出典> 地区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査 (3施設)

※参考資料集 3 P83-84

43

R2胃がん検診 (X線・内視鏡) 受診率



<出典> 令和2年度地域保健健康増進事業報告 (50-69歳、2年に1回)

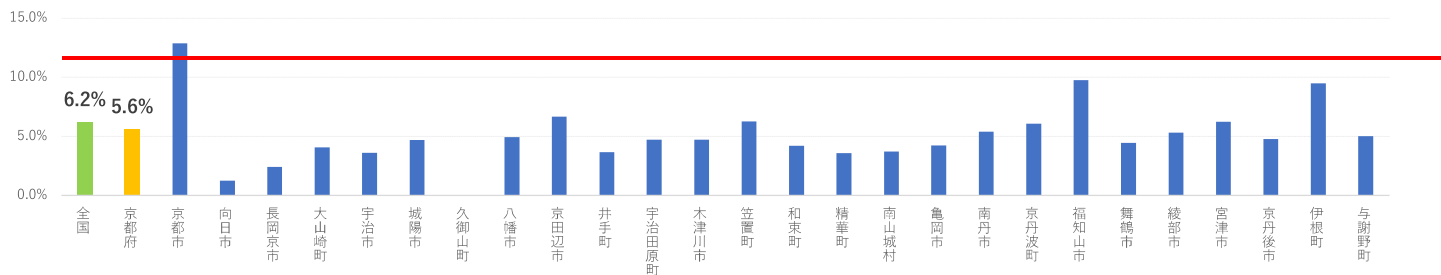
※参考資料集 3 P17

44

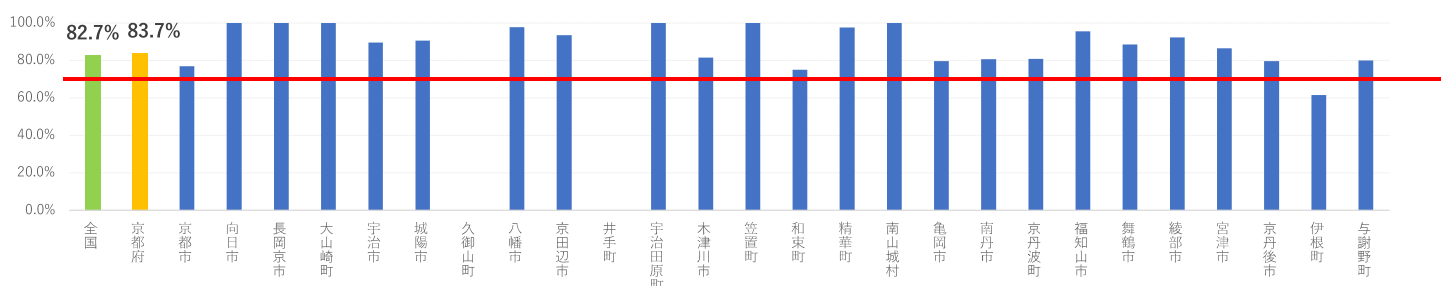
R1胃がん検診（X線・集団）市町村プロセス指標①

要精検率（許容値11.0%以下）

対象受診者数 23,186人 がん発見数 25人 ※40～74歳



精検受診率（許容値70.0%以上）



< 出典 > 令和2年度地域保健健康増進事業報告

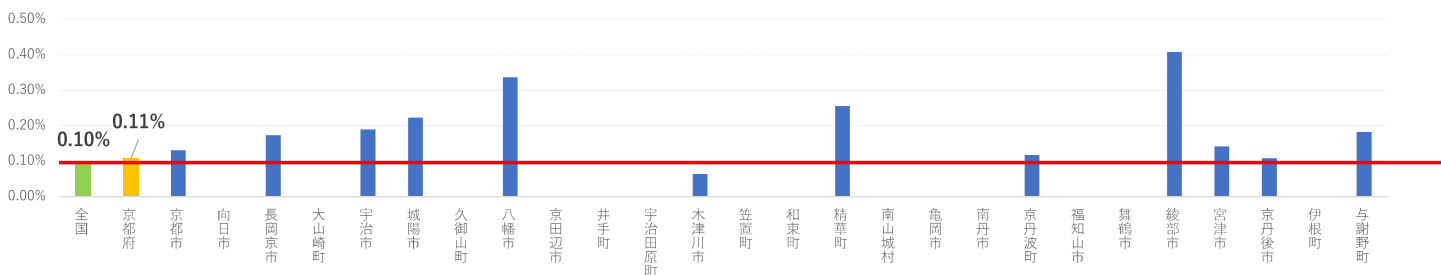
※参考資料集3 P21

45

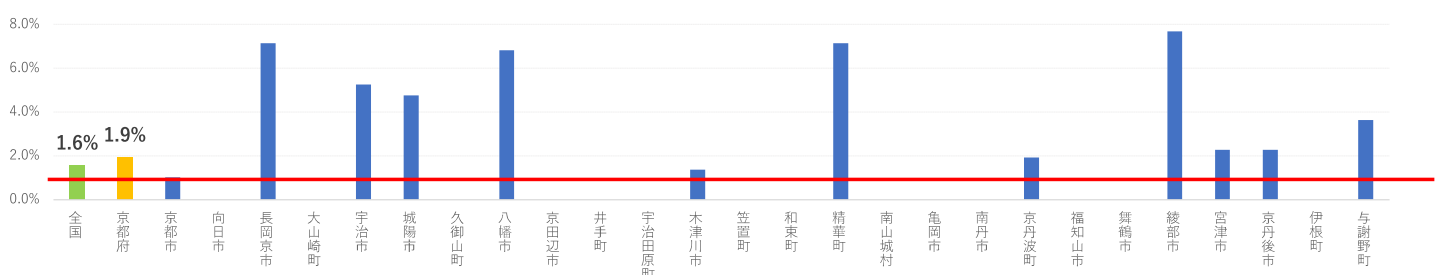
R1胃がん検診（X線・集団）市町村プロセス指標②

がん発見率（許容値0.11%以上）

対象受診者数 23,186人 がん発見数 25人 ※40～74歳



陽性反応適中度（許容値1.0%以上）



< 出典 > 令和2年度地域保健健康増進事業報告

※参考資料集3 P21

46

R1胃がん検診（X線・個別）市町村プロセス指標①

要精検率（許容値11.0%以下）

対象受診者数 14人 がん発見数 0人 ※40～74歳



精検受診率（許容値70.0%以上）



< 出典 > 令和2年度地域保健健康増進事業報告

※参考資料集3 P22

47

R1胃がん検診（X線・個別）市町村プロセス指標②

がん発見率（許容値0.11%以上）

対象受診者数 14人 がん発見数 0人 ※40～74歳



陽性反応適中度（許容値1.0%以上）



< 出典 > 令和2年度地域保健健康増進事業報告

※参考資料集3 P22

48

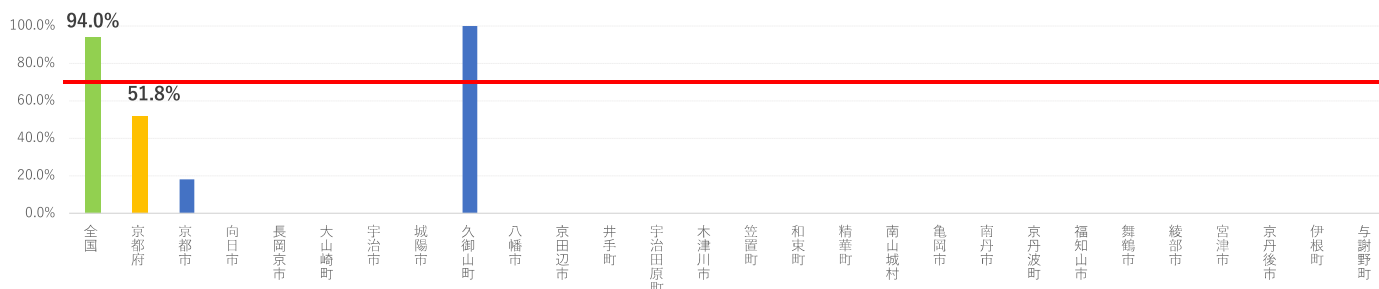
R1胃がん検診（内視鏡検査・個別）市町村プロセス指標①

要精検率（許容値11.0%以下）

対象受診者数 1,534人 がん発見数 2人 ※50～74歳



精検受診率（許容値70.0%以上）



< 出典 > 令和2年度地域保健健康増進事業報告

※参考資料集3 P24

49

R1胃がん検診（内視鏡検査・個別）市町村プロセス指標②

がん発見率（許容値0.11%以上）

対象受診者数 1,534人 がん発見数 2人 ※40～74歳



陽性反応適中度（許容値1.0%以上）



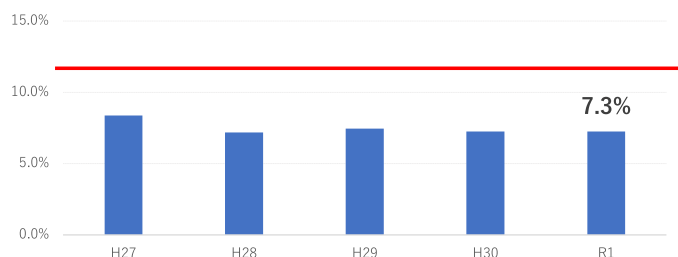
< 出典 > 令和2年度地域保健健康増進事業報告

※参考資料集3 P24

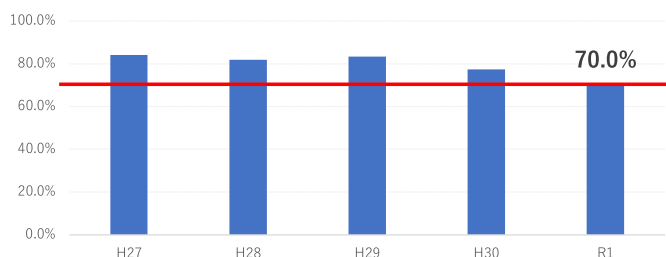
50

R1胃がん検診（X線・集団） 検診機関プロセス指標

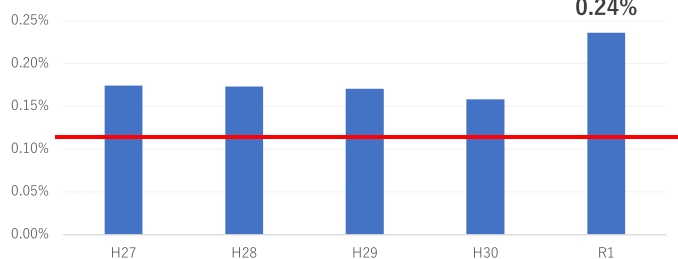
要精検率（許容値11.0%以下）



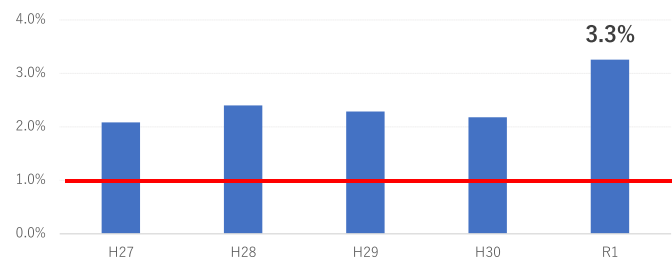
精検受診率（許容値70.0%以上）



がん発見率（0.11%以上）



陽性反応適中度（許容値1.0%以上）



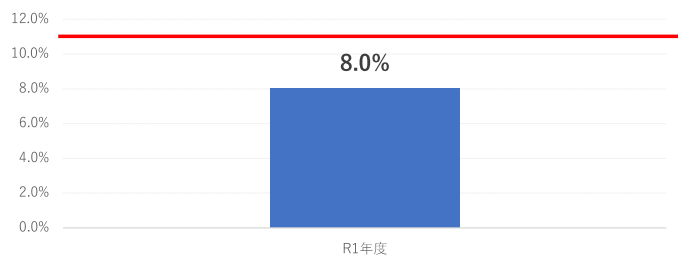
<出典>令和4年度京都府調べ

※参考資料集3 P33

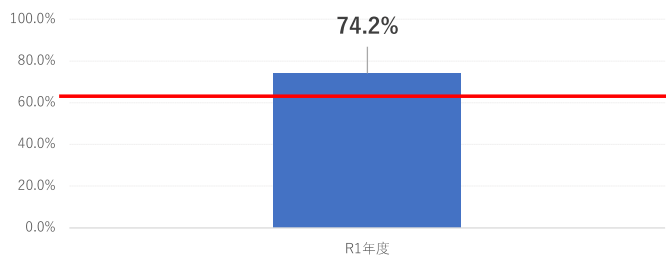
51

R1胃がん検診（内視鏡・個別） 検診機関プロセス指標

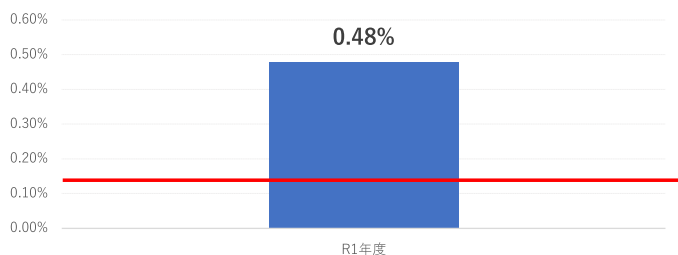
要精検率（許容値11.0%以下）



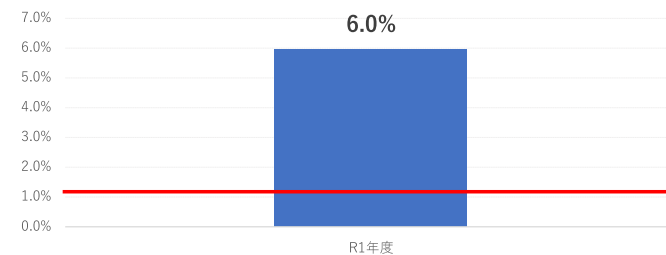
精検受診率（許容値70.0%以上）



がん発見率（許容値0.11%以上）



陽性反応適中度（1.0%以上）



<出典>令和4年度京都府調べ

※参考資料集3 P33

52